

# 藤波こども園

令和6年度 園長だより No.8

令和7年1月9日

文責 澤 悦弘



旧 藤波幼稚園



現 藤波こども園

## あけましておめでとうございます 令和7年がいい年になりますように

みなさんはどのような気持ちで「あけましておめでとうございます」と挨拶をされましたでしょうか。民俗学に米の豊作や繭の多産を祈って、予め祝う“予祝”という考え方や行事があるそうです。「あけましておめでとうございます」の挨拶にも、新年を無事に迎えられたことを祝うと同時に、「おめでとう」と声をかけあい、「新しい年にこれから起こる幸せを先に祝う」「新しい年をいい年にしよう」という予祝の意味があると聞きました。私事ですが昨年12月に母を亡くし、喪中ではありますが多くの人に新年の挨拶をさせていただきました。令和7年がおめでたい、いい年になることを願って「あけましておめでとうございます」

「お手伝い いっぱいしたよ！」  
～3学期始業式～

2学期終業式で「冬休みにはおうちでお手伝いできるといいね」と言っていたことを子どもたちはしっかりと覚えていて、3学期始業式でその様子を尋ねたところ「洗濯物を干すお手伝いをした」「ご飯の用意を手伝った」「お米を洗った」など、たくさん言ってくれました。終業式での話を覚えてくれていたことと、実際におうちでお手伝いをしていたことに、嬉しい気持ちになりました。その後、鏡餅の話になり、外側に2個ずつと真ん中に6個で、「ニコ(2こ)ニコ(2こ)、仲(中)おつ(6つ)まじく」という願いで12月にみんなで作ったことも子どもたちはしっかりと覚えていたようでした。



令和7年が子どもたちにとっていい年になることを願っています。

「ご飯が お餅になったー」  
「大豆で作ったきなこ おいしいー」

今年もお餅つきを体験しました。白に入ったご飯(餅米)がお餅に変わる様子を目の当たりにして不思議そうにして、杵を大きく振り上げて力強くお餅つきを楽しんだりしていました。前日に大豆を煎ってきなこを作っているときからお餅つきを楽しみにしていて、とても待ち遠しかったようです。できあがったお餅を小さくちぎって子どもたちが自分で食べる分を丸め、月組さんが作ったきなこをつけて食べたときは「おいしいー」の声がいっぱいでした。



楽しんでいて、とても待ち遠しかったようです。できあがったお餅を小さくちぎって子どもたちが自分で食べる



## みんな がんばった そして 楽しかった 発表会

### ★翌週も発表会

12月6日(金)に発表会を行いました。休み明けも子どもたちの頭には発表会が残っていました。「ホームで発表会をしよう」「桃組さんや雪組さんにも見せてあげよう」の声が上がり、ホームで衣装を着せあいつこをしたり、桃組や雪組のお友だちをお客さんに見立てて演じたりして楽しんでいました。



・・・園生活最後の発表会、とても感動しました。わけもわからず舞台にいただけだった花組時代、役割は理解していたけどセリフはほぼなかった星組時代に比べ、セリフを覚えて役を演じる姿に成長を感じました。勝負のシーンも暴力的ではなく、平和的な解決方法で安心して見ることができました。子どもたちには素敵な思い出ができたと思います。・・・

(月組保護者)

### ★心やさしい感想

発表会の前にリハーサルを他のクラスのお友だちに披露し、感想をお互いに言っていましたが、「じょうず」「かっこいい」など褒める言葉ばかりで否定的な感想はありませんでした。後から改めて「直したらいいと思うところは？」と保育者が尋ねると「今やっていることはそれでいい。声を大きくすればもっといい。恥ずかしくても声は大きい方がいい。先生からそのことを言ってあげて。」と答えたそうです。

このやさしさ、どのように身についたのでしょうか。きっと多くの人からやさしくしてもらい続けたのだと思います。

ご存じですか

## 「子どもの権利条約」

### 4つの原則

「子どもの権利条約」は1990年に国際条約として発効され、日本では1994年に承認されました。それまで保護の

対象として扱われていた子どもを「権利の主体」として認めたことで、保育の現場も



「子ども主体の保育」へ転換していきました。発効されてから30年が経ちましたが、その基本的な考え方である4つの原則は次の通りです。

- ①差別の禁止(差別のないこと)
- ②子どもの最善の利益  
(子どもにとって最もよいこと)
- ③生命、生存及び発達に対する権利  
(命を守られ成長できること)
- ④子どもの意見の尊重  
(子どもが意味のある参加をできること)

「子どもの権利を大事にするとは？」というテーマで、ある大学の先生が次のように言っておられました。「それは、どの子ども人間として大事に扱うということ。一言で言えば、子どもを人間としてリスペクトして接する、ということだと思う。」

子ども一人ひとりをリスペクトして接すれば、4つの原則を見失うことはないと思います。子ども



の最善を考え、子どもが意見を持てるよう、今後も取り組んでいきたいです。